

はじめに

言葉は自分の感情に気づいたり、思考をまとめたりするのに必要不可欠な道具です。

はさみや包丁は、100円ショップでも売っています。言葉は、誰でも使うことができます。その意味では100円ショップで売っている道具とあまり変わりません。しかし、言葉にはその人の「こころ」が込められています。言葉の使い方一つによって、その人の感じ方、考え方、延いては生き方が決まってきます。その意味において、他の道具とは大きく異なっています。

国語の領域は、「読む」「書く」「話す」「聞く」の4つから成立しています。従来の授業では「読む」と「書く」を重視してきました。この授業では、「話す」「聞く」も取り入れて、日本の言葉である国語の総合的な力を身につけます。また、言葉だけでなく、その背景にある「こころ」についても考えます。過去からつながる現在の自分を理解し、人と交わり、主張したり傾聴したりして、自己を形成し、未来の自分を創造することを目指します。

実習が中心になります。評価は、提出物や授業への参加意欲が対象になります。この授業を通して、一人一人が成長していくことを希望します。

